

千葉 ライフ・ライン ニュースレター No.62

【発行】千葉県テレビ伝道協力会
〒260-0021 千葉市中央区新宿2-8-2
CCCビル 「千葉ライフ・ライン係」
TEL 043-247-3058 FAX 043-247-3072
E-mail: chiba@life-line.tv
ホームページ <http://chiba.life-line.tv/>
郵便振替：00110-8-579669

【協力】財団法人 太平洋放送協会(PBA)
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台
2-1 OCCビル
TEL 03-3295-4921 FAX 03-3233-2650
E-mail: mail@pba-net.com
ホームページ <http://www.pba-net.com>
でんわ世の光 03-3291-9061

「たねまき」

日本キリスト教団・京葉中部教会牧師 村上 茂樹

「人生は旅、人は皆旅人」と言い、高齢にもかかわらず、ヨーロッパ中を車で移動しながら各地にある日本人家庭集會に招かれ伝道をされていた一人の日本人老牧師と私は出会いました。彼は旅をして、私と出会い、私に聖書の話伝えてくださいました。私も旅をして、千葉に来て、「ライフ・ライン」の活動と出会いました。今回、私はこの老牧師から伝え聞いたマルコによる福音書4章1-9節の話の皆様にお伝えしようと思います。

ガリラヤの田舎を旅しながら伝道するイエスの話に耳を傾けたのは農民や漁師などの素朴な民衆たちでした。イエスは彼らに「たとえ」を用いて神の国の教えを語りました。それはこの世の日常生活で経験する具体的な事柄を「たとえ」として用いて、神の国という信仰の真理に彼らを導くためでした。

「種まきのたとえ」は従来、伝道は、難しく、効率の悪い仕事であるということを教えているのだとされていました。それはこの「たとえ」に続いて13-20節に記されているイエスによる説き明かしがそのことを裏付けているからです。しかしパレスティナ地方に住む人がこの説き明かしを読んだなら、この説き明かしがイエスによるものではないことが明白だそうです。

パレスティナでは今もイエスの時代と同じ農法が続いており、このたとえの通りに作物が栽培されているそうです。そこでは蒔かれた種は、踏み固められた地面では鳥に食べられたり、石だらけで土の少ない所では根が枯れたり、茨に阻まれて実が結ばないことは当然のこととして、何よりもまず種まきが優先されるのだというのです。つまりイエスはこの「たとえ」を用いて伝道の困難さや、神の言葉を聞く者の責任を問うているのではなく、「何よりもまず種を蒔くことが大切なことであり、一見、無駄で、徒労と思えることであっても、止めてはならない。最後には必ず期待にまさる大きな実りが与えられる。神の国とはそのようなものだ」と語っているのではないのでしょうか。

現実の私たちはどんなに祈っても、どんなに聖書の言葉を伝えても、どんなに神の愛と神の正しさに立って行動しても、何も実らないではないかと絶望感を持たざるを得ないような世界に生きています。神はどうして沈黙しているのか、神はどこにいるのかと私たちは問わずにはいられません。こんな不毛な土地に何が実るといえるのか、神の言葉を蒔き続けることに、私たちは意味を見出せなくなってしまいそうです。しかし御言葉の種まきは、厳しく難しい仕事で、徒労と思え、不毛を嘆かざるを得ないようなことがあっても、性急に結果を断定してはならず、希望を持って、時が良くても、悪くても最後までたゆまず続けることが大切であり、主なる神は必ずこれを用いて大いなる実りを最後に与えて下さるのであるということをイエスは私たちに語りかけているのではないのでしょうか。

種を蒔くことは専門家だけでなく、誰にでもできることです。パウロは「私は植え、アポロが水を注いだ。しかし成長させてくださったのは神様です。」(Iコリント3:6)と語っています。私たちは躊躇することなく、至る所へ福音の種を蒔く事が求められています。育てるのは神様です。私たちから見て発育が良くないとたとえ思っても、最後には私たちの想像もしなかったような大きな実りになるということを私たちは決して忘れてはなりません。

今回のイエスの「たとえ」の話をお聞きくださった老牧師は去年のイースターにその長い人生の旅を終えられました。